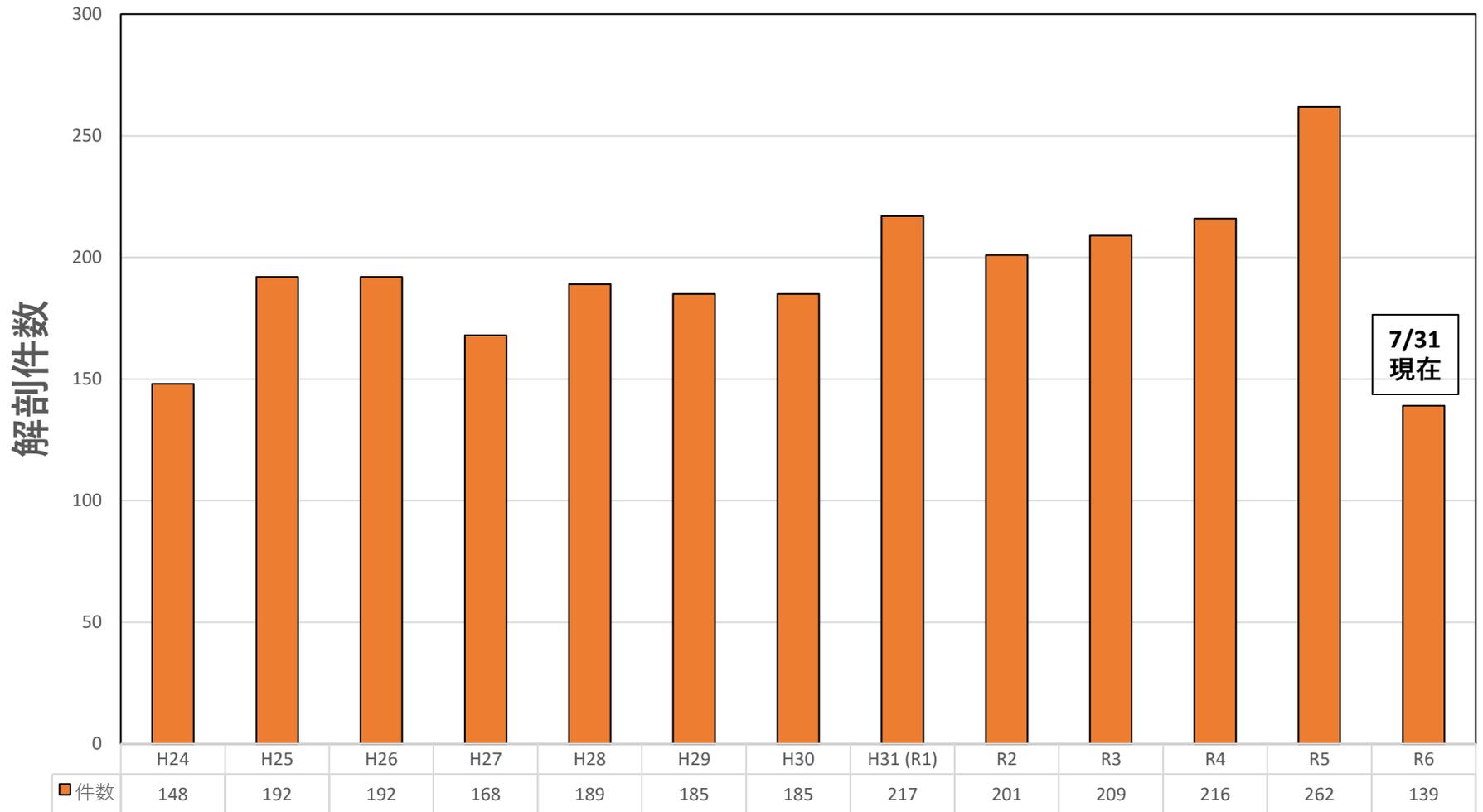


# 令和6年 法医学教室から

奈良県立医科大学法医学教室

粕田承吾

# 奈良医大法医学教室における解剖数の推移



# 環境・設備の問題点

## ① 施設の老朽化

冷暖房が効かない。

カビだらけ。

給排水設備が常に故障状態。

## ② スペースの問題

とにかく手狭。

分析装置を購入しようにも設置スペースがない。

人員を増やそうにもデスクを置く部屋が無い。

## ③ 解剖台

1台しかない。

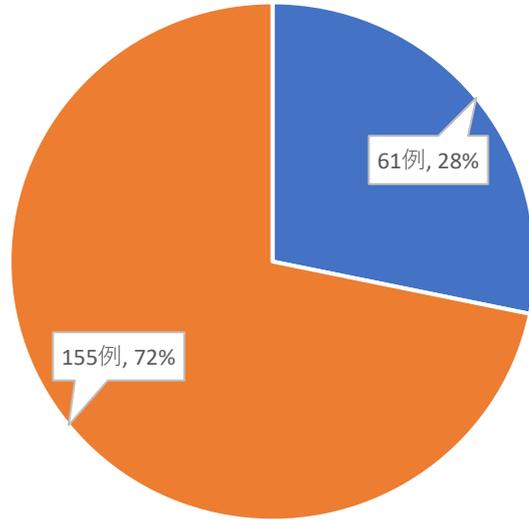
たとえ解剖医が増員されたとしても、解剖数を増やすことができない。

# 孤独死について

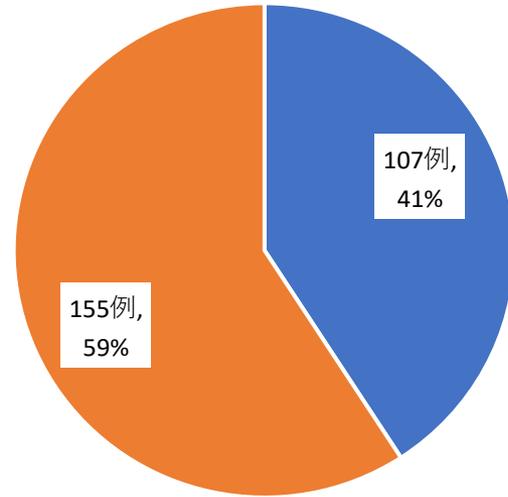
(次ページグラフ参照)

- 全解剖事例中、4割が**自宅**で、**高度腐敗状態**で発見された事例  
→昨年よりも全体に対する自宅腐敗事例が増加している。
- この中には、火災による高度焼損で身元不明になった事例や、屋外で高度腐敗で発見された事例は含まれない。
- これら自宅発見・高度腐敗事例のうち、3割程度が死因不詳とせざるを得ない。
- すなわち、**年間解剖事例の1割程度が、自宅で死亡後に長期間放置されたために、死因不詳**となってしまうている。  
→死因統計に影響
- 孤独死を未然に防ぐ方策は無いか？
- やむなく死亡した場合でも早期発見する方策は無いか？

令和4年



令和5年



孤独死割合

- 自宅発見腐乱
- その他

死因判明割合

- 死因判明
- 不詳

